

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 6月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.196 2023.6

紹介内容 (5/1~5/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 気仙沼農改：令和5年度の枝もの用クロマツの定植が完了しました
 - 大河原農改：水稲育苗講習会で講師として参加しました
 - 大河原農改：宮城県ころ柿出荷協同組合の総会が開催されました
 - 栗原農改：栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました
 - 石巻農改：ぶどう栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 2
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました
 - 仙台農改：農業大学の学生が普及センターを訪問しました
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を開催しました
 - 亘理農改：令和5年度亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会通常総会が開催されました
 - 栗原農改：農業大学1年生が普及センターを訪問しました
 - 美里農改：令和5年度農業大学1年生が美里農業改良普及センターで訪問学習をしました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会が合同庁舎で販売会を行いました
 - 美里農改：高校生に向けて有機物の活用に関する講義を行いました
 - 気仙沼農改：農大生による普及センター訪問が実施されました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 大河原農改：七ヶ宿町で整備したRTK基地局を活用した農作業が始まりました
 - 美里農改：アイガモロボや水管理システムで環境にも人にも優しい農業を！

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 6
 - 大崎農改：ぶどう栽培講習会を開催しました
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの地区夏秋きゅうり部会栽培講習会が開催されました
 - 栗原農改：そらまめの現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：きゅうりの現地検討会が開催されました
 - 登米農改：登米管内各園芸部会の総会が開催されました
 - 栗原農改：加工用ばれいしょの栽培指導を行いました
 - 栗原農改：令和5年度ズッキーニ部会現地検討会が開催されました
 - 美里農改：日本なしの防除研修会及び摘果講習会が開催されました
 - 美里農改：JA新みやぎ「さつまいも栽培講習会」が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- ④ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 美里農改：さつまいもほ場で排水対策の実証を行いました
 - 大河原農改：たまねぎの栽培管理講習会を開催
 - 栗原農改：きゅうりの出荷査定会と現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：たまねぎの現地検討会が開催されました
 - 登米農改：そらまめの現地検討会が開催されました
 - 登米農改：きゅうりで天敵製剤を導入しました
 - 大河原農改：そらまめの現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：いちご育苗研修会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米にんにく部会の現地検討会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・ 11
 - 登米農改：小麦種子生産ほ場の確認を行いました
 - 石巻農改：「だて正夢」栽培講習会で講師として参加しました
 - 大崎農改：子実用とうもろこしの播種実演会が開催されました
 - 登米農改：稲種子生産ほの育苗巡回を行いました
 - 石巻農改：大麦種子生産ほの第一期ほ場審査が行われました！
 - 石巻農改：JAいしのまきと農政に関する意見交換会を開催しました！
 - 美里農改：べんもり直播に初挑戦する生産者を支援！
 - 美里農改：子実用とうもろこし生産拡大に向けたは種実演会が行われました
 - 石巻農改：水稻の乾田直播栽培の現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：麦類種子生産ほ場の審査を行いました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・ 14
 - 石巻農改：石巻河北地区で麦の現地検討会が開催されました
 - 登米農改：日本農業賞受賞の有限会社エヌ・オー・エーが村井知事を表敬訪問しました
 - 大崎農改：水稻採種ほ農家育苗巡回
 - 大崎農改：新たにトルコギキョウ栽培に取り組む生産者を支援しています
 - 大崎農改：稲の優良品種決定調査ほの田植をしました
 - 気仙沼農改：令和5年度 枝もの用クロマツのは種作業研修会が開催されました
 - 大崎農改：加美町の花き農家を巡回しました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・ 16
 - 仙台農改：利府高校生の梨花粉交配奉仕活動をお手伝いしました
 - 大崎農改：色麻町ではえごまの無化学肥料栽培に取り組みます
 - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座田植え体験」が開催されました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・ 17
 - 登米農改：「グリーンな栽培体系」を目指して、展示ほの田植えが行われました
 - 気仙沼農改：水稻ペースト二段施肥の実演会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 令和5年度の枝もの用クロマツの定植が完了しました
令和5年5月1日
気仙沼農業改良普及センター



管内で栽培されている、枝もの用クロマツの令和5年度分苗定植が完了しました。

枝もの用クロマツの栽培を行っている、株式会社南三陸Pine Pro（パインプロ）は、令和5年3月29日（水）から苗定植を開始し、4月14日（金）までの17日間で、気仙沼市内に45a、登米市内に20a、合計65aの定植を実施しました。

1日だけ春休み中の高校生ボランティアが、5名ほど応援に来てくれましたが、会社代表の後藤氏とパート10名で、一日あたり3.5万本の苗を定植し、合計60万本の定植を行いました。

作業期間中に2日程度降雨で作業を中断したものの、作業期間は土日関係なく定植が行われ、パートさん達も作業に慣れて、終盤には一日あたり5万本の定植を行えるようになりました。

今回定植した苗は、3年後の令和8年に収穫する予定ですが、購入した苗の品質が不揃いで、初期生育と株落ちが心配と後藤代表は言っています。

普及センターでは、後藤代表の心配を少しでも解消できるように、先進地の情報提供や定期的な生育調査を行い、クロマツ生産の支援を行っています。

- 水稲育苗講習会で講師として参加しました
令和5年5月12日
大河原農業改良普及センター



令和5年4月14日と18日、20日の3日間、村田町、白石市、柴田町及び大河原町で開催された水稲育苗講習会（主催：JAみやぎ仙南）に講師として参加しました。

普及センターからは、今年は特に育苗期間中の気温が高くなっていることから、育苗施設の温度管理に十分注意すること、田植後の管理の留意点や農作業安全について説明しました。

参加者からは、プール育苗における最初の入水タイミングや、高密度播種育苗の場合の箱施用剤散布量など、活発な質問が寄せられました。

普及センターでは、令和5年産の良質米生産に向け、引き続き支援していきます。

- 宮城県ころ柿出荷協同組合の総会が開催されました
令和5年5月16日
大河原農業改良普及センター



令和5年5月9日に、宮城県ころ柿出荷協同組合の第71回通常総会が開催されました。

ころ柿出荷協同組合では、原料の蜂屋柿が丸森地区を中心に、凍霜害や奇形果の影響で2年連続の半作以下となり、昨年度も市場向け出荷を制限せざるを得ない状況でした。しかし、他産地でも霜害等による品不足傾向となったため市場からの引き合いは強く、干し柿は全般的に高値で取引されました。

令和5年度の事業計画では、原料柿の確保はもちろん、贈答用ころ柿のデザイン開発や食べ方レシピの作成など販売方法の見直し、ふるさと小包等の産直便の拡大等を目標に掲げ取組んでいく予定です。

普及センターからは、これからの栽培管理の要点を説明し、柿の生育ステージを確認しながら防除を実施するよう指導しました。今後も引き続き栽培支援に取組んでいきたいと思っています。

- 栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました
令和5年5月18日
栗原農業改良普及センター



令和5年4月21日に宮城県栗原合同庁舎を会場として令和5年度栗原農業士会の通常総会及び研修会が開催されました。

通常総会では、前年度の事業内容及び新年度の事業計画が議論され、いずれも承認されました。また、役員改選が行われ、会長が交代するなど新体制が発足しました。

研修会では、普及センター職員から、昨今の米を巡る状況について説明した後に、飼料や肥料など生産資材の高騰への各々の対応について質疑応答や意見交換を行いました。また、今年度の普及指導計画の概要について説明しました。

○ぶどう栽培講習会が開催されました

令和5年5月23日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月17日（水）にJAいしのまき主催でぶどう出荷者を対象にぶどう栽培講習会が開催されました。

会場の園地はシャインマスカットのH型整枝・短梢栽培で、作業性に優れた整枝となっており、品質の高い果実生産が期待されています。

普及センターからは、シャインマスカットの5月～6月の管理として、新梢管理、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒等について説明と実演を行いました。また、5月としては暑い日が続いており、日焼け対策として、ハウスの換気や毎日のかん水を呼びかけました。

5月の新梢管理から6月下旬の袋かけまでは手の抜けない作業が続きます。収穫は9月下旬頃から始まりますので、是非、地元の皮ごと食べられる甘いシャインマスカットを御賞味ください。

シャインマスカットは、人気の高い果実であり、栽培者の増加が期待されています。普及センターでは、今後とも栽培技術の支援を行っていきます。

○河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました！

令和5年5月29日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月23日に石巻市河北地区でJAいしのまき主催のミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました。10人の生産者が参加し、各生産者のほ場を巡回し検討を行いました。

どのほ場でも目立った病害虫はなく順調に生育しています。天候が変わりやすい季節のため、生産者ごとの生育ステージに合わせて、かん水やハウス環境の調節といった栽培管理を指導しました。

現在は3～5段目が開花しており、生育の進んでいるほ場は6月中旬頃からの出荷が見込まれます。

普及センターではこれからも巡回指導などを行いながら、栽培管理の支援を行います。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました

令和5年5月8日

巨理農業改良普及センター



宮城県農業大学校に本年度入学した当管内出身の学生4人を対象に、みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を令和5年4月28日（金）に開催しました。

講座では、普及センターから管内農業の状況や普及センターの役割等について説明しました。参加した学生は、始めは緊張していましたが、次第に緊張もほぐれ、傾きながらメモを取る姿が見られました。

また、意見交換では、これから大学校で学びたいことや将来就きたい職業について大学校生一人ひとりに紹介してもらいました。農業大学校での講義や実習は初めて学ぶことが多く新鮮で楽しいという意見がある一方、高校時代とは異なり、講義時間が長いこ

とや専門用語が多く、講義の進むスピードが速いことに戸惑いがあるようでした。

2年間の在学期間に色々な事にチャレンジし、将来に繋げて欲しいと思います。今後の成長が楽しみです。

普及センターでは、引き続き、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○農業大学の学生が普及センターを訪問しました 令和5年5月9日 仙台農業改良普及センター



令和5年4月に農業大学校に入校した、仙台農業改良普及センター管内出身の学生17名と県外出身の学生7名が、令和5年4月28日(金)、当普及センターに来所されました。

普及センターではこの訪問を「みやぎ農業未来塾」に位置づけ、普及センターの主な仕事や、大消費地「仙台」を有する管内の農業の状況や課題を説明し、その解決などに向けた普及センターの取組などをお話ししました。学生からは自己紹介で卒業後の進路希望を1人1人から伺い、その後、質疑応答により学生の質問に答えました。

これまで農業との関わりがなかったり、農家出身であっても普及センターのことを知らなかったという学生たちは、はじめは緊張していましたが、次第に打ち解け、疑問に思っていることなどを次々と質問し、有意義な「未来塾」を開催することができました。将来を担う若者たちから農業に対する熱い想いを聞いたことで、今後の成長が楽しみです。普及センターでは今後も、新規就農者を含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

宮城県農業大学校について詳しくは下記URL(アドレス)をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ:

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を開催しました 令和5年5月12日 大河原農業改良普及センター

令和5年4月28日に、令和5年度みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を開催しました。

本講座は、宮城県農業大学校の1年生を対象に仙南地域農業を紹介し、進路選択や就農後の経営の一助にする目的で行いました。



農業改良普及センター職員から、仙南地域の農業の概要や普及センターの役割、普及センターが重点的に取り組むプロジェクト課題、新規就農者支援の概要について説明しました。

受講した学生は、熱心にメモをとるなど、積極的な姿勢で講義を受けており、質疑応答では、就農するに当たりどのような準備が必要か、などの質問が出されました。

当普及センターでは、本県農業を担う新たな担い手の確保・育成に向けて、引き続き取り組んで参ります。

○令和5年度亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会通常総会が開催されました 令和5年5月15日 亘理農業改良普及センター



令和5年4月13日に亘理町役場会議室を会場に令和5年度亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会通常総会が開催されました。

令和5年度の総会は3年ぶりに会員が集まっての開催となりました。会長の挨拶で「新型コロナウイルス感染症の拡大で計画していた視察研修ができなかったものの、クラブ員の協力を得て公園の除草作業や新規就農者との交流活動を実施することができた」と報告がありました。

また、来賓として亘理町農林水産課長、みやぎ亘理農業協同組合営農対策課長、亘理農業改良普及センター所長が出席し、若い後継者に向けて熱いメッセージが贈られました。

総会の協議事項は全て承認され、新たな執行部のもと令和5年度事業がスタートします。コロナで失った3年間を取り戻すべく、農業技術、経営知識の習得や新規会員の積極的な勧誘と交流活動など活発な事業展開が計画されています。

普及センターでは、農村青少年の活動を積極的に支援してまいります。

○農業大学校 1 年生が普及センターを訪問しました
令和5年5月16日
栗原農業改良普及センター



令和5年4月28日に栗原市出身の宮城県農業大学校1年生4名が栗原農業改良普及センターを訪問しました。

はじめに農業改良普及センター職員から、栗原地域の農業の概要や地域と農業法人が求める人材、新規就農者支援等就農環境について紹介し、その後質疑応答や進路について意見を交換しました。訪問した学生のうち2名は農家、2名は非農家出身でしたが、各々就農や就職など進路が明確であり、就農・就職への心構えや普及指導員が行う具体的な仕事の内容等について、積極的な質問が出されるなど強い学習意欲が感じられました。

訪問した学生は就農あるいは農業関連会社への就職を希望していることから、今後も農業大学校と連携して支援していきます。

○令和5年度農業大学校1年生が美里農業改良普及センターで訪問学習をしました
令和5年5月19日
美里農業改良普及センター



令和5年4月28日に美里地域出身の農業大学校1年生5名が美里農業改良普及センターを訪問し、美里地域の農業の現状や普及センターの役割などを学びました。

はじめに、美里普及センターから美里地域は世界農業遺産大崎耕土の東部に位置し、水稻・麦・大豆の生産が盛んで、涌谷町の小ねぎ、大崎市鹿島台のトマト、美里町のじゃがいも、北浦梨など特産物が多いこと。普及センターは、農業の技術や経営の課題解決等を直接農業者に接して助言する仕事であることを説明しました。

次に、普及センターの組織体制やプロジェクト課題等の取り組みを説明したあと、新規就農者育成総

合対策事業について紹介しました。

その後の質疑応答では、農業者の相談で技術や経営、病虫害防除、土壌施肥設計、新規就農相談が多いこと、飼料価格高騰の要因はコロナ禍や国際紛争、円安等により輸入飼料価格が上昇し、子実用トウモロコシなど自給飼料増産に取り組んでいることを話しました。

また、進路については、「家督なので農業を継ぎ規模を拡大したい」「牛が好きで繁殖肥育一貫経営を拡大したい」「養豚や水稻の規模拡大を図りたい」「父の農業法人経営を継ぎ食料自給を支えたい」「農や食に関することは面白くやりがいがある」など5名全員が就農を希望しており、所長から「農業大学校で学ぶことと人との出会いを大切に、地域農業を担う人材になってほしい」とエールを送り、訪問学習を終えました。

○気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会が合同庁舎で販売会を行いました
令和5年5月22日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会は会員数9人と少数ではありますが、いちご栽培を行う農家や、収穫した農産物を使ったクレープ販売を行う会員等、バラエティに富んだメンバーで活動を行っています。月に1度、気仙沼合同庁舎でクラブ員が栽培・製造した「いちご」と「クレープ」の販売会を行っており、令和5年4月20日に今年度1回目の販売会が行われました。

販売会は事前に合同庁舎職員から注文を取り、当日にクラブ員が配達する形式で行いました。クレープ、いちごとともに多くの注文をいただき、販売会に参加した4Hクラブ員は、今後もお客様に喜んでいただける商品を作りたいと、気持ちを新たにしています。

○高校生に向けて有機物の活用に関する講義を行いました
令和5年5月26日
美里農業改良普及センター

宮城県小牛田農林高校草花専攻班では、県内の未利用有機物を活用した野菜の品質向上によるブランド化にチャレンジしています。このたび、農業改良普及センターでは「農業における土づくり（有機質資源



の効果)について」と題して講義を行いました。

講義の中では、農業における土づくり資材としての有機物に焦点を当て、その種類や効果を紹介すると共に、高校生がチャレンジしようとしている水産系の未利用有機物の活用の可能性について、現場の事例などを踏まえて説明を行いました。高校生からは自分たちの知りたい内容の参考になったとの声が聞かれました。

普及センターでは、未来の農業を支える高校生のチャレンジを応援していきます。

○農大生による普及センター訪問が実施されました

令和5年5月30日

気仙沼農業改良普及センター



宮城県農業大学校では、1年生を対象に、学生自身が出身地の農業の現状や普及センターの役割を把握し、先進農業体験学習や進路検討、就農後の経営等に役立てるため「普及センター訪問」を実施しています。

当普及センターにも、令和5年4月28日、畜産学部と園芸学部に入学者2名の学生が来所しました。

当日は、普及センター所長による歓迎のあいさつの後、職員から管内農業の現状、普及センターの役割と活動内容、新規就農者の支援策の概要、4Hクラブの活動について説明しました。

さらに、学生からも「畜産農家の労働時間はどの位か」や「今後、伸びる品目は何か」といった質問が出され、質疑応答を通して農業の現状をより深く理解した様子でした。

最後に、それぞれの将来の進路について考えをお聞きして助言するとともに、何か相談があれば普及センターを頼ってほしいと伝えました。

普及センターでは、今後も地域農業の担い手の確保育成に努めていきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○七ヶ宿町で整備した RTK 基地局を活用した農作業が始まりました

令和5年5月16日

大河原農業改良普及センター



中山間地域に位置する七ヶ宿町の農事組合法人で、自動操舵システムを搭載したトラクターによる代かき作業が行われました。

この自動操舵システムトラクターは、令和4年度に七ヶ宿町が県の補助事業を活用して整備した RTK 基地局を活用しており、直進作業はオペレーターによるハンドル操作が不要となっています。

RTK 基地局とは、GPS などの衛星測位情報を補正し、測位精度を誤差 2～3 cm に向上させるデータ配信設備です。

町内では、本年度から当該法人を含め、3 法人が RTK 基地局を活用する自動操舵システムトラクターや、ドローンによる農薬散布などを開始する予定です。

各法人では、自動操舵システムトラクター等のアグリテック農機の導入により、農作業の省力化や軽労化につなげていきたいとのことです。

○アイガモロボや水管理システムで環境にも人にも優しい農業を！

令和5年5月31日

美里農業改良普及センター





大崎市などが組織する「大崎市有機農業・グリーン化推進協議会」は、スマート農機の現地講習会を大崎市松山で開催し、生産者や国、県、JAなど約40人が参加しました。これは国の「みどりの食料システム戦略」に対応して有機農業に取り組む生産者に役立つ技術として、水田雑草の成長を抑えるアイガモロボとスマートフォンを活用した水管理システムの実証実験について紹介しました。

アイガモロボはソーラーパネルとバッテリーを搭載し、水田を自動で移動しながらスクリーで泥を巻き上げ光を遮断し、雑草の発生を抑えるものです。水管理システムは水位や水温がスマートフォンから確認できるほか、入水を制御できるモデルでは遠隔で設定した水位まで水を入れることができ、メーカーの実演では参加者の注目を集めていました。

普及センターでは、講習会を主催した協議会に参画し、生産者や関係機関と連携しながら環境にやさしい技術の実証や普及について支援していきます。

④園芸産地の育成・強化支援

〇ぶどう栽培講習会を開催しました。

令和5年5月10日

大崎農業改良普及センター



宮城県の北西部、大崎市岩出山地区にある「あ・ら・伊達な道の駅」は集客数や販売額が全国トップクラスの道の駅で、農産物直売所には季節ごとの新鮮な野菜などが並びます。

あ・ら・伊達な道の駅の運営主体である株式会社池月道の駅と普及センターでは、直売所へ出荷する生産者の所得向上を目指し、令和3年度から2か年にわたり、プロジェクト課題「直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売」を展開してきました。その結果、直売所へ出荷する生産者は徐々に増えてきていますが、植栽後間もない生産者も多いため、プロジェクト課題終了後も継続して技術指導を行っています。令和5年5月9日にはその一環としてぶど

う「シャインマスカット」の春期作業に関する講習会を開催しました。

品質の高いぶどうを生産するための春期作業として、花穂整形、無核化处理(種なしぶどうにする作業)、新梢管理などがありますが、普及センター職員が講師となり、これらの作業について講習を行いました。

普及センターでは、今後も時期ごとに講習会を開催し、品質の高いぶどう生産に向けた支援を行っていきます。

〇JA 新みやぎみどりの地区夏秋きゅうり部会栽培講習会が開催されました

令和5年5月16日

美里農業改良普及センター



令和5年4月19日にJA新みやぎみどりの地区郷営農センター主催の「夏秋きゅうり部会栽培講習会」が開催され、部会員6名が参加し、積極的な情報交換等が行われました。

当普及センターからは、3月に診断した土壌分析結果と前年結果の比較について説明しました。部会全体の傾向として、肥料成分の過剰が肥培管理上の課題になっていましたが、前年よりも塩基バランス等が改善されたほ場が増えてきていました。

近年、肥料価格の高騰や持続可能な環境にやさしい農業等が求められており、肥料コストや環境などを一層考慮した施肥設計が重要となっています。今後も土壌分析結果等を踏まえた上で、単肥や堆肥などを活用した施肥設計をするよう呼びかけました。

普及センターでは、土壌分析に基づく適正施肥管理の取り組みなどを働きかけながら、各園芸品目の安定生産、環境にやさしい農業生産の推進を支援していきます。

〇そらまめの現地検討会が開催されました

令和5年5月17日

栗原農業改良普及センター





令和5年4月14日(金)、JA新みやぎ栗っこそらまめ部会の現地検討会が瀬峰地区ほ場及び志波姫地区ほ場の2会場で開催され、生産者28名と種苗会社及び普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、種苗会社の担当者から整枝方法、追肥のタイミング、開花後の乾燥防止など今後の栽培管理のポイントについて説明がありました。つづいて、普及センターからは、主要病害虫の特徴と対策について説明し、防除に使用できる薬剤の例示の他、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、RACコード(農薬の作用機構分類)を参考にしたローテーション散布を呼びかけました。

参加者は、そらまめの栽培管理や病害虫防除についての知識を深めたようでした。

普及センターでは、同部会員のそらまめの栽培技術向上に向けて、今後も継続して支援していきます。

○きゅうりの現地検討会が開催されました 令和5年5月17日 大河原農業改良普及センター



令和5年4月17日、角田市でJAみやぎ仙南角田胡瓜部会による半促成栽培の現地検討会が開催されました。当日は部会員5人とJAみやぎ仙南職員、(株)ときわ研究所の社員、普及センター職員が参加しました。

現地検討会では、各生産者のほ場を巡回し、(株)ときわ研究場の指導員と普及センターからそれぞれの生産者の現在栽培状況の講評と、今後の管理方法について説明を行いました。生産者同士がそれぞれの管理方法について積極的に意見交換する様子も伺えました。

きゅうりの栽培では、急激な乾湿を避け、追肥の時期などを見極めるとともに病害虫防除が重要になることを伝えました。普及センターでは、今後も巡回等を通して生産向上に向けての支援を行っていきます。

○登米管内各園芸部会の総会が開催されました 令和5年5月18日 登米農業改良普及センター



新年度に入り、管内ではJAみやぎ登米園芸関係各部会の総会が開催されています。

4月は20日にリンゴ部会、25日にはそらまめ部会とら部会、26日には米山いちご部会、28日にはキャベツ部会の総会が開催され、普及センター職員もそれぞれの総会に出席しました。

このうち、そらまめ部会では会員13名が出席し、始めに上位等級比、10a当たり収量及び最多販売量の優秀生産者に対する表彰が行われました。続く総会では、4議案全てが原案通り承認され、「出荷規格の統一・部会員全員の意識向上(総会・出荷査定会への参加)」に重点をおいて活動していくことを確認しました。

いずれの部会も、近年はコロナウィルスの流行を考慮し書面開催となっていましたが、今回は4年ぶりの対面での開催となりました。部会員間での情報交換も積極的に行われ、「部会員が集まることの良さを改めて感じた」という声もあがっていました。

普及センターでは、今後も各部会の活動について支援を行ってまいります。

○加工用ばれいしょの栽培指導を行いました 令和5年5月19日 栗原農業改良普及センター



令和5年5月16日、栗原市金成津久毛地区で、カルビーポテト(株)と普及センターの担当者が加工用ばれいしょの栽培指導を行いました。同地区では、数年前からカルビーポテト(株)向けの加工用ばれいしょ栽培に取り組んでおり、本年度は2生産者が4月初旬に植付けを行い、現在生育が順調に進んでいます。

カルビーポテト(株)の担当者からは、各ほ場の生育状況や今後の管理作業について説明がありました。また、種芋の切り方や培土の深さ、排水対策等につい

て、次作に向けた確認も行いました。

生産者は加工用ばれいしょの栽培管理についての知識を深めたようでした。

○令和5年度ズッキーニ部会現地検討会が開催されました

令和5年5月22日

栗原農業改良普及センター



令和5年5月9日、栗原市築館の佐藤部会長宅で、JA 新みやぎ栗っこズッキーニ部会の現地検討会が開催されました。現地検討会には生産者15名が参加しました。

はじめに、(有)兵藤種苗商事の尾形常務からズッキーニ栽培について、摘葉や追肥のタイミングなど、生産者が特に気になっているポイントを詳しく説明いただきました。

普及センターからは、ズッキーニ栽培において問題となる病害虫への対策について、農薬のローテーション例などを説明し、防除に対する理解を促しました。また、ほ場周辺の雑草に付着していた害虫を実際に例示し、周辺除草の重要性について説明しました。

最後に、ハウス及び露地ほ場の見学を行いました。参加した生産者は栽培状況を熱心に確認し、栽培管理について生産者同士で活発に意見交換する様子が見られるなど、今後のズッキーニの生産拡大に向けてとても有意義な研修会となりました。

○日本なしの防除研修会及び摘果講習会が開催されました

令和5年5月23日

美里農業改良普及センター

「北浦梨」は大正時代から続く美里町の特産で、当町は県内有数の日本なし産地です。現在は「幸水」、「豊水」、「あきづき」等、様々な品種が栽培されています。

JA 新みやぎ北浦梨部会(部会員35人)は、令和5年産の高品質な果実生産に向けて、5月17日に防除



研修会と摘果講習会を開催しました。

午前中の防除研修会は、普及センターから「ナシ黒星病」と、近年管内で確認されているマイナー病害虫の特徴や耕種的・化学的防除方法についての説明を行った後、防霜資材や新規登録薬剤及び種苗法改正を受けた各品種の取り扱い等に関する情報提供を行いました。参加者からは、登録品種の育成者権の存続期間が満了した後の取り扱いや登録品種の種苗増殖に対する育成者の許諾方針の確認方法等についての質問が出されました。

午後の摘果講習会は、はじめに普及センターから予備摘果の実施時期や残す果実の基準等の基本事項について説明・確認を行った後、実際の花そうを見ながら幼果の形や大きさ及び品種特性等を踏まえてどのように判断するかについて実演を行いました。参加者は予備摘果や仕上げ摘果における各々の判断基準や新梢管理等に関する意見交換を行いながら実技研修を行いました。

普及センターでは、引き続き高品質な果実の安定生産に向けた支援を行ってまいります。

○JA 新みやぎ「さつまいも栽培講習会」が開催されました

令和5年5月25日

美里農業改良普及センター



令和5年5月9日(火)に、JA 新みやぎみどりの統括営農センターで、「さつまいも栽培講習会」が開催されました。

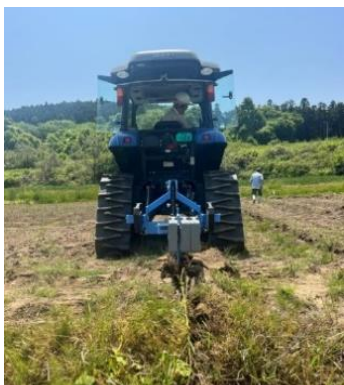
JA 新みやぎでは、さつまいもの生産を振興しており、新たに栽培を始める生産者が増えています。今年度、JA 新みやぎみどりの管内では1.8ha、約10経営体で生産が行われる予定です。講習会では、新規栽培者を中心に13人が出席し、5月下旬の定植に向けたさつまいもの栽培管理技術について学びました。

普及センターから、ほ場準備や定植方法をはじめ、除草対策や病害虫防除などの栽培方法や、さつまいもの経営試算について説明を行いました。生産者から、コガネムシの防除方法や施肥設計についてなど、

活発な質疑応答が行われました。また、終了後も複数の生産者や農協担当者で情報交換が行われ、栽培への意欲がうかがえました。

普及センターでは、引き続き JA 新みやぎと連携し、さつまいもの安定生産に向けた栽培技術支援を行っていきます。

○さつまいもほ場で排水対策の実証を行いました 令和5年5月25日 美里農業改良普及センター



管内では、水田転作における高収益作物の取り組みが拡大しています。なかでも、「さつまいも」は、JA 新みやぎで産地化を目指した取組が進められており、新たに栽培を行う生産者が増えています。水田で露地園芸に取り組む場合、排水対策が重要であり、技術の確立や普及が急務です。

令和5年5月17日（水）に、農業・園芸総合研究所の協力のもと、涌谷町のさつまいもほ場で排水性改善の実証試験として、穿孔暗渠機（カットドレーン）の施工を行いました。カットドレーンとは、トラクターに装着し、けん引することで簡易な暗渠又は補助暗渠を施工できるアタッチメントです。

今回は、カットドレーンを通常よりも狭い間隔で施工し、より高い排水性改善効果を狙っています。試験ほ場の生産者からは、今後の生育への効果を期待したいと感想が聞かれました。また、見学に訪れた生産者は、水田における高収益作物の導入に向けて、研究所の研究者や試験ほ場の生産者と活発に意見交換を行っており、関心の高さがうかがえました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携し、水田における高収益作物の導入、拡大に向けた取組を支援していきます。

○たまねぎの栽培管理講習会を開催 令和5年5月25日 大河原農業改良普及センター



4月18日、JA新みやぎ仙南たまねぎ部会（部会員17名）を対象に4月から5月までの雑草対策、病害虫対策の栽培講習会を開催しました。

7.5haの栽培面積の中で半数以上を占める晩秋まき栽培を例に定植後の気象経過やほ場巡回の結果を踏まえ、順調に生育していることを報告しました。併せて、機械化一貫体系の中で収穫・調製作業の障害となる雑草の防除や今後発生が予測される病害虫対策についてお話ししました。

また、JA及び全農みやぎからは、県内他産地と連携して出荷する手法として、圃場からコンテナで直接他地域の乾燥施設に持ち込む体制について説明がありました。

今後、6月の出荷に向け、栽培現地検討会や出荷販売検討会を開催し、部会員個々の出荷について詳細を決めていく予定です。

普及センターでは仙南地域のたまねぎ産地育成のため、引き続き支援をしていきます。

○きゅうりの出荷査定会と現地検討会が開催されました 令和5年5月25日 栗原農業改良普及センター



令和5年5月19日（金）、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の出荷査定会が栗原市若柳の野菜集荷場で、また、現地検討会が栗原市若柳の生産者ほ場で開催され、部会員11名、JA新みやぎ、(株)石巻青

果、(株)ときわ研究場、(株)埼玉原種育成会及び普及センターの担当者が出席しました。

出荷査定会では、きゅうりの販売情勢について(株)石巻青果から説明があった後、当日出荷されたきゅうりを見ながら出荷規格を確認し、詰め方等の意見交換が行われました。

現地検討会では、ほ場で生育状況を確認しながら、(株)ときわ研究場及び(株)埼玉原種育成会から、天候に合わせた今後の管理について説明がありました。

普及センターからは、べと病や褐斑病に防除効果の高い殺菌剤の例示など、「主要病害虫の特徴と防除のポイント」を説明しました。生産者からは、「殺菌剤を選定するうえで、とても参考になる」と評価いただきました。

○たまねぎの現地検討会が開催されました

令和5年5月26日

大河原農業改良普及センター



令和5年5月1日と2日、JAみやぎ仙南たまねぎ部会による現地検討会が開催され、生産者のほ場を巡回しました。たまねぎ部会では現在、14名の生産者が7.4haの作付けに取り組んでいます。

巡回の際は、農協と普及センターの職員からそれぞれの生産者の栽培状況についての講評と、今後の病害虫防除等の管理方法について説明を行いました。

JAみやぎ仙南では、たまねぎの機械化一貫体系を促進するため機械リースを進めており、普及センターでも軽労化に向け、機械化への支援を行ってきました。今後も生産技術向上、部会活動活性化等に向けての支援を行っていきます。

○そらまめの現地検討会が開催されました

令和5年5月26日

登米農業改良普及センター



令和5年5月12日に、JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました。検討会には生産者約10名が参加し、登米市豊里町の生産者のほ場2か所で現地検討を行いました。

普及センターからは、今年のそらまめの生育が例年より少し早いことから、薬剤の散布時期や、注意すべき病害虫の防除方法について確認を行いました。検討会に参加した生産者は、父の日に合わせたそらまめの出荷に向けて、意気込みを新たにしていました。

そらまめは、5月25日ころから収穫が始まります。品質の良い登米のそらまめを是非ご賞味ください！

○きゅうりで天敵製剤を導入しました

令和5年5月26日

登米農業改良普及センター



登米地域では、促成作、夏秋どり、抑制作の3つの作型で3月から11月まで出荷が行われており、宮城県内一のきゅうりの生産地となっています。

きゅうりは病気にかかりやすく管理がとても難しい作物ですが、近年では病気に抵抗性を持つ品種が開発され、病害防除の回数が減らせるようになってきました。そこで今作から、害虫の防除回数も減らそうと、県外他産地で導入実績のある天敵製剤を導入し、効果を実証することになりました。

天敵製剤の利用は、薬剤散布回数低減による省力化だけでなく、環境負荷低減の効果も期待されます。普及センターでは、天敵の定着度と発生している害虫を定期的に調査しています。

今後も、天敵製剤の種類や特徴、導入上の注意点など、きゅうりの生産技術向上のため、情報発信を行ってまいります。

○そらまめの現地検討会が開催されました

令和5年5月30日

大河原農業改良普及センター



令和5年5月18日、JAみやぎ仙南白石そらまめ部会による現地検討会が開催され、部会からは5人の生産者が出席しました。

現地検討会では、白石市内の各生産ほ場を巡り、生育状況や病害虫発生の有無等を確認し、普及センターから、講評と今後の管理の説明を行いました。質疑応答では、生産者から積極的な質問が出され、生産者の方々の栽培に対する意識の高さを感じられました。

宮城県は、そらまめの主産地であり、生産量のさらなる拡大が求められています。普及センターでは、今後も生産拡大に向けての支援を行っていきます。

○いちご育苗研修会が開催されました 令和5年5月31日 亘理農業改良普及センター



亘理郡内のいちごの出荷はまだ続いています。育苗作業が本格的に始まるのを前に、令和5年5月24日にJAみやぎ亘理いちご部会主催の「令和6年産いちご育苗管理講習会」が行われ、33名の生産者が参加しました。

講習会では、普及センターから栽培管理のポイントとして、前半は肥培管理に注意してランナー数を確保すること、後半は特に病害虫防除対策を丁寧に行い、目標とする収穫時期から夜冷処理時期などを逆算して採苗を行うこと等について説明を行いました。生産者らは、収穫期間中の育苗研修会ではありましたが、次作に向けて、苗づくりの要点を確認しました。

JAみやぎ亘理における令和5年産いちごの販売実績(5/10時点)は、対前年比で重量94%、金額103%になっています。普及センターでは、今後も関係機関と連携し、いちごの生産額増加に向けて支援していきます。

○JAみやぎ登米にんにく部会の現地検討会が開催されました 令和5年5月31日 登米農業改良普及センター



令和5年5月24日、JAみやぎ登米にんにく部会の現地検討会が開催され、部会員15人が参加しました。本年は、3月の大雨によりほ場の冠水が見られ病害虫の発生が心配されましたが、病害虫の発生は少なく、生育も良好でした。

検討会では、視察先ほ場でのこれまでの管理や6月末の収穫後の管理について検討が行われました。また、部会員から連作障害への対策や土づくりについて質問があり、部会員が取り組んでいる対策の情報交換や、農業改良普及センターで行っている土壌診断を活用した施肥設計の仕方等、今後の品質向上に向けた意見交換が行われました。

普及センターでは、土壌診断による肥培管理指導など、品質向上に向けた支援を行っていきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○小麦種子生産ほ場の確認を行いました 令和5年5月1日 登米農業改良普及センター



令和5年4月11日に、みやぎ登米農業協同組合米穀課の職員と令和5年産小麦種子生産ほ場の確認を行いました。

登米管内には、小麦の種子を生産する法人が2軒あり、迫町の法人で「シラネコムギ」715a、豊里町の法人で「あおぼの恋」115aを生産しています。

今回は、事前に届出があったほ場の場所と旗の記載内容を照合し、間違いがないことを確認しました。

3月が温暖だったことで小麦の生育が早まり、「あおぼの恋」が4月30日頃、「シラネコムギ」が5月8日頃に出穂期に達する予測となっており、その頃に第1期ほ場審査を行う計画です。

普及センターでは、今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

○「だて正夢」栽培講習会で講師として参加しました 令和5年5月8日 石巻農業改良普及センター



令和5年4月13日にJAいしのみき主催で水稲品種「だて正夢」の栽培講習会が開催されました。当普及センターから作物担当普及指導員が講師として参加し、だて正夢の令和4年の作柄と栽培ポイントについて農業者に説明しました。だて正夢は販売開始から5年が経過しましたが、さらに良い品質や収量を高め、安定した生産が必要となります。

令和4年産「だて正夢」の生育状況は石巻農業改良普及センター管内では穂数、籾数ともに平年より7～14%減少したものの、千粒重は平年比102%となり、聞き取り実収では570kg/10aと良好でした。

「だて正夢」の高品質安定生産のためのポイントとしては、田植えを5月中旬に行い、その際の植付株数を60～70株/坪にすると良いとされています。ほかにも土づくり、追肥など栽培のポイントについて講義し、参加者は令和5年産の栽培の参考としていました。

石巻管内の令和5年の「だて正夢」の作付予定は54haです。今年も美味しいみやぎ米を作るために地域一丸となって取り組んでいきます。

○子実用とうもろこしの播種実演会が開催されました

令和5年5月9日

大崎農業改良普及センター



JA古川では令和4年から子実用とうもろこしの大規模栽培実証に取り組んでおり、令和5年は102ha（前年+10ha）の作付けが予定されています。

令和5年4月19日には、子実用とうもろこしの播種実演会が開催され、生産者や関係機関など約230人が参加しました。子実用とうもろこしは1粒の種から雌穂1本を収穫する作物であるため、播種精度が収量を大きく左右します。実演会では、真空播種機と目皿式播種機の実演が行われ、それぞれの機械の特徴や播種量の違いについてメーカー担当者から説明がありました。

普及センターでは、令和5年度よりプロジェクト課題として「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術の確立」に取り組んでいます。引き続き関係機関と連携しながら、子実用とうもろこしの栽培技術確立に向けて支援してまいります。

○稲種子生産ほの育苗巡回を行いました

令和5年5月16日

登米農業改良普及センター



令和5年5月9日に、JAみやぎ登米水稲種子採種組合の育苗巡回を行いました。

JAみやぎ登米水稲種子採種組合では、「ひとめぼれ」と「だて正夢」の種子を生産しており、毎年育苗の時期に各組合員のハウスを回って苗の生育状況や管理の状況を確認しています。

普及センターでは、苗の病害の有無、品種が間違っていないか、食用米と区別して適切に管理されているかといった点を重点的にチェックしています。

今年は苗の草丈がやや長い傾向が見られましたが、問題となる病害は特になく、生育状況は概ね良好でした。5月13日頃から順次田植が始まる予定です。

次回は、6月中旬に移植後の採種ほ場を確認する計画です。

普及センターでは、今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

○大麦種子生産ほの第一期ほ場審査が行われました！

令和5年5月17日

石巻農業改良普及センター



令和5年4月24日～5月2日に管内の農業法人5法人を対象に大麦ほ場審査を行いました。当管内では石巻市で33.1ha、東松島市で6.1haの大麦種子の生産が行われています。

大麦の種子生産ほでは出穂期と糊熟期の2回ほ場の審査が行われますが、今回は第一期（出穂期）の審査になります。当普及センター職員による審査には生産者、JAいしのみき職員が立ち会い、生育状況や栽培管理状況、変種・異品種の有無、病害虫について審査を行いました。今年は気温が高く推移した影響で、例年より生育が早い傾向にありましたが、おおむね生育良好で全ほ場が合格となりました。

当普及センターでは、栽培指導や審査を通して優良な大麦種子の生産を支援してまいります。

○JA いしのまきと農政に関する意見交換会を開催しました！

令和5年5月18日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月11日にJA いしのまきとの意見交換会を開催し、JA いしのまき営農部と石巻農業改良普及センター職員等の計18人が出席しました。

高齢化による担い手の減少や肥料・飼料の高騰等、農業が抱える課題の共有に加え、アグリテックの活用を含めた水田農業の推進や園芸振興、担い手の育成等、農業振興に向けた取組や連携について、幅広く意見交換を行いました。

コロナ禍で、一堂に会しての意見交換がなかなか開催できませんでしたが、今回、顔を合わせて怠らない意見交換を行い、推進の方向性を協議したことで、より一層の連携強化が期待されます。

引き続き、普及センターでは関係機関と連携し、農業振興に向けた効果的な普及活動を進めていきます。

○べんモリ直播に初挑戦する生産者を支援！

令和5年5月18日

美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センター管内では、稲作経営の大規模化に対応した省力化のため、湛水直播及び乾田直播の取組が拡大しています。大崎市鹿島台の大沼ファームでは、今年度初めて直播栽培に取り組むため、普及センターで技術支援を行っています。

前年度に普及センターから各直播栽培の特徴などを説明し、ほ場条件や所有機械など考慮して「べんがらモリブデン（通称：べんモリ）」による湛水直播に取り組むこととしました。農閑期には古川農業試験場の見学会や研究員の説明を受けるなど、知識を深めてきました。

今年は春から気温が高く、コーティング種子の芽の動き出しが早い傾向にあったものの、代かきを順次行って準備が整ったほ場から播種作業を行いました。

普及センターでは、試験場と連携しながらコーティング種子の取り扱いについてアドバイスを行ったほか、播種作業時には現地にて播種状況や薬剤散布の実施確認を行うなど、確実な作業の実施について働きかけました。大沼ファームの経営者も、育苗を行っていた昨年度までと比較して省力化の効果を実感していました。

○子実用とうもろこし生産拡大に向けたは種実演会が行われました

令和5年5月19日

美里農業改良普及センター



涌谷地域農業再生協議会は、令和4年度から家畜向け配合飼料の主原料である子実用とうもろこしの生産実証に取り組んでいます。

その取組の1つとして、4月25日に自動操舵トラクターと真空は種機を使用した実演会が開催されました。

子実用とうもろこしは分けつしない作物であることから、は種は今後の収量を左右する重要な作業であり、確実なは種による栽植密度の維持が必要です。本実演会では、は種作業を自動操舵トラクターで行うことにより、適正速度での機械走行が可能となり、一定の間隔で正確なは種ができました。また、子実用とうもろこしは、大豆等と比べて作業時間が少ない作物ですが、自動操舵トラクターの活用によって1haあたりのは種作業時間が30分弱で完了したことから、更なる作業時間の短縮が期待されます。

普及センターでは、子実用とうもろこしの生産など、省力的な転作作物の導入に向けた支援を行っています。

○水稻の乾田直播栽培の現地検討会が開催されました

令和5年5月19日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月16日にJAいしのみき主催で水稲の乾田直播栽培の現地検討会が行われました。東北農業研究センターから講師を招き、乾田直播栽培を行っている4つのほ場を巡回して稲の苗立ち本数や雑草の発生状況を確認し、今後の除草剤の処理時期や種類、水管理などについて検討をしました。

どのほ場でも苗立ち本数は1㎡あたり約100～130本ほどの生育となりました。乾田直播では100～120本/㎡の苗立ち本数が必要とされており、どのほ場も十分な苗立ちとなっていました。乾田直播栽培ではポイントとなる雑草の防除も十分に行われていますが、今後発生する雑草に備えて、管理の準備を行うように指導がありました。検討会には石巻・東松島市の農業生産者18人を含む、関係者40人ほどが参加し、今後の栽培管理について疑問点などを積極的に質問していました。

石巻管内の令和5年の乾田直播による作付は約900haとなっており、普及センターは今後も水稲の乾田直播栽培を支援していきます。

○麦類種子生産ほ場の審査を行いました 令和5年5月23日 大崎農業改良普及センター



大崎普及センター管内では、大崎市古川の1組織が、シラネコムギの種子を生産しています。令和5年産の麦類種子は、昨年10月下旬に播種が行われ、高温の期間が長く続いたことから、過去10年で最も生育が進んでいます。普及センターでは、優良種子の生産に向けた技術指導と種子審査を行っています。

令和5年5月17日には、第一期ほ場審査を実施しました。麦類種子は出穂期と糊熟期にほ場審査を実施することになっており、今回の第一期は出穂期の審査となります。審査では、異種株や異品種株の有無、雑草や病虫害の発生状況、麦類の生育状況等の確認を行いました。麦類の生育は順調で、全筆合格となりました。

普及センターでは優良な麦類種子が生産できるよう引き続き技術指導をまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○石巻河北地区で麦の現地検討会が開催されました 令和5年5月1日 石巻農業改良普及センター



令和5年4月11日にJAいしのみき主催で石巻河北地区の麦現地検討会が行われました。5法人6ほ場を巡回し、幼穂長の測定から想定される生育状況から減数分裂期追肥の時期（幼穂長30mm）及び開花期の赤かび病防除時期の指導を行いました。どのほ場も幼穂長は10～25mmで例年より生育は早いものの順調に生育しており、追肥時期は4月中下旬頃と予想されました。今年は気温が高く推移しており、追肥時期や赤かび防除の時期や刈り取り時期が早まるっているため、参加者は今後の作業日程について検討を行っていました。

石巻管内では、令和5年産で大麦が約780ha、小麦が約190ha作付けされています。昨今の国際情勢の影響により、国産麦の需要が高まっていることから当普及センターでは、今後も高品質な麦の安定生産に向けて栽培支援を行っていきます。

○日本農業賞受賞の有限会社エヌ・オー・エーが 村井知事を表敬訪問しました 令和5年5月8日 登米農業改良普及センター



第52回日本農業賞個別経営の部で大賞を受賞した有限会社エヌ・オー・エーの高橋良代表取締役が、令和5年4月18日に宮城県の村井嘉浩知事への受賞報告のために表敬訪問を行いました。日本農業賞は、日本農業の確立をめざして、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者を表彰しています。

(有)エヌ・オー・エーは、水稲・麦類・大豆・飼料作物の耕種部門と和牛繁殖の畜産部門をそれぞれ大規模に経営する複合経営体です。耕種部門からの飼料作物を自給飼料とし、畜産部門からの堆肥を耕作農地に還元することで資源循環型農業を確立しています。

営農技術の特徴としては、大規模経営に積極的な経営効率・省力化技術とICT技術を導入・実践していることであり、耕種部門ではプラウ耕による水稲乾

田直播栽培や自動操舵システム、畜産部門では粗飼料の自給やAIセンサーによる発情確認技術を取り入れています。

さらに、これらの活動は法人内にとどまらず、「全国和牛能力共進会宮城県大会」や「中田町生産組織連絡協議会」でのリーダーシップ、地域内耕畜連携による広域的な資源循環型農業への貢献、こだわりの味噌「登穀」における地元の味噌加工業者との連携、宮城県農業大学校研修生等の受け入れなど広範な取り組みであり、日本農業の目指すべき一つの方向性を示す優秀な経営体として受賞したものです。

普及センターでは、引き続き耕畜連携による資源循環型農業や省力的な水稲乾田直播栽培、各分野へのICT技術導入等の推進モデルとして支援していきます。

○水稲採種ほ農家育苗巡回 令和5年5月9日 大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センター管内は、県内の水稲種子の6割を生産する「種もみの産地」です。今年も、県内の農家が来年作付けするための種もみの生産が始まっています。

普及センターでは、毎年育苗の時期に管内の採種農家のハウスを回り、苗の生育状況や管理の状況を確認しています。採種農家を作るイネは原種と呼ばれる純正種子を用いて栽培し、適正な管理のもとで収穫され、優良種子として来年作付けする農家に届けられます。

育苗は種子生産の最初の作業であり、病気になったり他の品種と混じったりしてしまわないよう細心の注意を払わなければなりません。普及センターの育苗巡回は、苗の病害や障害の有無だけでなく、苗の取り違えが起きないようにしっかり管理されているかといった純正種子生産の視点も踏まえて取り組んでいます。

○新たにトルコギキョウ栽培に取り組む生産者を 支援しています 令和5年5月11日 大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、やくらい土産センターの魅力のある品ぞろえを実現するため、収益性の高い新たな作物の導入について提案する研修会を令和4年11月30日に開催し、研修会で提案したトルコギキョウの栽培に今年度から3名が取り組むことになりました。トルコギキョウは育苗管理が難しいため、普及センターで苗の購入を提案したところ、新たにやくらい土産センターでまとめて苗の購入ができるようになったことから、初心者でも栽培に取り組みやすい体制が整いました。令和5年4月26日は、苗の納品に合わせて、普及センターから苗の管理方法、定植、栽培の注意点などを紹介しました。

8月～9月にかけて、美しいトルコギキョウを販売できるよう、引き続き技術支援してまいります。

○稲の優良品種決定調査ほの田植をしました 令和5年5月18日 大崎農業改良普及センター



県では本県に適する水稲品種を選定するため、水稲優良品種決定調査を実施しており、このうち古川農業試験場で基本調査を実施し、県内各普及センターでは供試品種・系統の地域適応性を調査・検討しています。大崎農業改良普及センターでは西部丘陵地帯（県北の標高70m～250mの地帯）における適応性を検討するため、加美町小野田地区に調査ほを設置しています。

5月15日は、2品種・3系統（品種になる前の稲）の田植をしました。担当農家の協力をもらい田植機で8条ずつ植えてから、普及員5人がかりで補植（欠株に手で苗を植えること）を行いました。補植は各調査区の植付株数や植付本数が同じ条件となるようにする大切な作業です。優良品種・系統を選定するための調査は、出穂期や成熟期、収量性調査などを今後実施し、県全体で成績が検討されます。

○令和5年度 枝もの用クロマツのは種作業研修
会が開催されました
令和5年5月24日
気仙沼農業改良普及センター



管理機を使った覆土作業の実演

令和5年5月17日、南三陸町を会場に「枝もの用クロマツのは種作業研修会」が開催されました。

当日は、クロマツ研究会の会員13名とクロマツ栽培に興味を持っている非会員4名、他に県関係機関9名と南三陸町担当者1名、合計27名が参加しました。

研修会では、電動は種機を使ったは種作業の他、覆土作業、鎮圧作業の実演が行われた後、参加者もそれぞれの作業を体験していました。

電動は種機は、モーターで自走するため、作業者はは種機が曲がらないように手を添える程度で良く、難しい作業は無いものの、最初に1メートル程度は種して、調整を繰り返す必要があります。

は種作業を体験した参加者から、「思ったより簡単」、「早く自分もほ場にまきたい」と好意的なコメントが多かったです。

令和5年度の県内は種予定者は10名程度で、おおよそ1.3haのは種面積になる見込みです。

今後は、他地域の栽培者同士が情報交換できるように、現地研修会等を開催しクロマツ生産の支援を行っていきます。

○加美町の花き農家を巡回しました
令和5年5月29日
大崎農業改良普及センター



令和5年5月18日、やくらい土産センターに出荷している花き生産者や、市場にばらを出荷している生産者を巡回し、生育状況の確認を行いました。盆の需要期に向けてトルコギキョウや露地ぎくが定植され、概ね順調に生育していました。また、昨年から新規就農者が取り組んでいる、多肉植物の生産状況も確認しました。多くの種類がビニールハウスの中ですくすくと生育していました。

普及センターでは今後も、地域の花き振興を支援してまいります。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○利府高校生の梨花粉交配奉仕活動をお手伝い
しました
令和5年5月2日
仙台農業改良普及センター



宮城県利府高校では、地元の特産品である梨の花粉交配作業を通じて、郷土を理解し愛する心を培うふるさと学習の推進を図り、地域社会との交流を深めるという目的で4年ぶりに開催されました。

全体集会では、74名の1年生が集まりました。普及センターから受粉作業について説明をした後、利府町内の農業者4名のほ場に分れて作業を行いました。それぞれの圃場に到着後、改めて園主から作業について説明を行い、各生徒に受粉に必要な道具と梨花粉が渡されました。

風が強く吹き、受粉にとってはあいにくの天候となりましたが、地元農業者や農協職員、役場職員などが生徒を見守り、時折アドバイスを生徒に行いました。めったにできない受粉作業体験に、生徒たちは真剣なまなざしで取り組んでいました。生産者は、4年ぶりの行事にうれしそうに受粉作業を教えました。

○色麻町ではえごまの無化学肥料栽培に取り組みます
令和5年5月23日
大崎農業改良普及センター



色麻町えごま栽培推進協議会では、他産地との差別化を図るため、今年度から化学肥料を使わない栽培に取り組むこととなりました。これまで、協議会では堆肥のみでえごまを栽培する事例は少なく、効果的な堆肥の使用法の確立が必要となっています。そこで、普及センターでは協議会と連携し、町内で手に入りやすい鶏ふん堆肥のみを使用する栽培試験を行うこととなりました。令和5年5月17日に開催された協議会の総会において、普及センターから栽培試験の概要を説明したところ、会員から具体的な堆肥の使用法などの質問があり、関心の高さが伺えました。

普及センターでは、今後も協議会と連携し、効果的な鶏ふん堆肥の使用に向けた技術支援を行ってまいります。

○「なとり・ぐるっと親子講座田植え体験」が開催されました
令和5年5月26日
巨理農業改良普及センター



令和5年5月21日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「第1回なとり・ぐるっと親子講座 開講式、田植え体験」が開催され、巨理農業改良普及センターも運営支援をしました。「なとり・ぐるっと親子講座」は、平成13年度から始まり、東日本大震災、新型コロナウイルス感染拡大により3年間休止されましたが、今年で開催20年目となりました。「ぐるっと」とは、名取市内の農産物のもぎとり体験をしながらぐるっと回ること由来しているそうです。

前日までは雨が降って開催が心配されましたが、当日は晴天となり、参加した12家族40人の親子は、泥んこになり汗を拭きながら田植えを体験しました。また、田植機による田植実演見学では、あつという

間に田植が終了したことに「昔の人は、手植え作業で大変だったんだな」などの感想が聞かれました。

当普及センターでは、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動とともに、管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○「グリーンな栽培体系」を目指して、展示ほの田植えが行われました
令和5年5月29日
登米農業改良普及センター



登米市は環境保全米の栽培が県内一盛んな地域です。

昨年度は、「ペースト肥料の田植同時施用によるプラスチック被覆肥料の利用削減」など、従来の環境保全米から一歩進んだ「グリーンな栽培体系」の検証を行い、従来の環境保全米とほぼ同等の品質・収量を得ることが実証できました。一方で、「肥料価格高騰への対応」や「生産者の選択肢の拡大」といった課題も明らかとなりました。

そこで、今年度は普及センターのプロジェクト課題として、JAみやぎ登米、肥料・農機メーカーの協力のもと5か所の展示ほを設置し、課題の解決に向けて取り組むこととしました。

5月12日の登米市豊里町の展示ほで、「田植えと同時に、昨年の3/4の量に減肥したペースト肥料を3cmと9cmの深さに施肥」という設計で実施しました。

最初に、田植機前部にある2つのタンクに肥料を注入し、田植機から確実に肥料が滴下されていることを確認してから田植えが行われました。途中、機械の調整で時間を要したものの、その後は順調に田植えは進み、肥料の残量から、設計どおり肥料が滴下されたことを確認しました。

当日は、稲作部会員数名が見学を訪れ、普及センターからは資料を配付し、グリーンな栽培体系に対する理解を図りました。

今後は定期的に展示ほの調査を行い、グリーンな栽培体系の検証を行っていきます。

○水稲ペースト二段施肥の実演会が開催されました
令和5年5月30日
気仙沼農業改良普及センター



近年、河川を通じて海洋に流入するプラスチックが問題となっており、これまでプラスチックによる被覆肥料を使い続けてきた農業分野においても大きな関心事となっています。

このような背景を受け、管内にラムサール条約に登録された志津川湾がある JA 新みやぎでは、海洋プラスチック問題に配慮した米生産の取組を推進するため、令和 5 年 5 月 15 日、南三陸町において、「水稻ペースト二段施肥」の実演会を開催したところ、生産者や関係機関から多数の参加がありました。

この技術は、プラスチックを使用しない粘性のあるペースト状の肥料を、田植えと同時に土中の上下二段に施肥することで肥料の効果が持続するもので、被覆肥料の代替として期待されています。今回は、施肥位置を田面から「3 cm 下」と「12cm 下」の二段になるよう施肥位置を調整して田植えが行われました。

今後、肥料メーカーによる生育調査が実施され、地域での適用性が検討される予定です。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.196

発行日:2023年6月15日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp